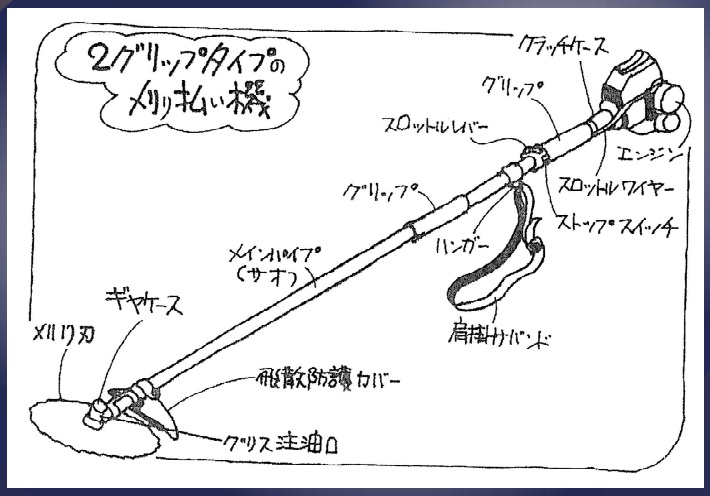
刈払機



（農文協「かゆいところに手が届く
農家の機械整備便利帳」より）

1　刃をセットする手順

①刃受け金具と刃押さえ金具のあいだに、回転方向を正しく合わせてセットする。

②カップワッシャーは消耗品なので、すり減っているものは交換する（ボルトの頭と面一まで減ったら交換）。

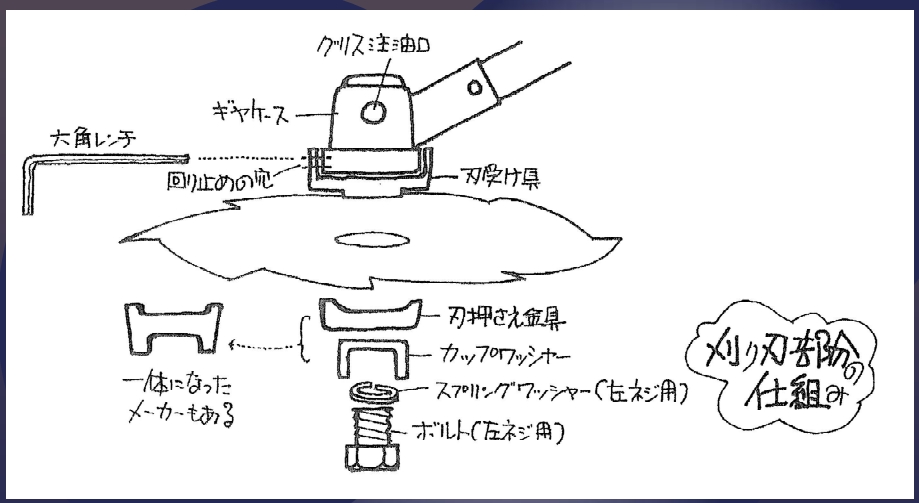
③スプリングワッシャーとボルトは左ねじ用なので注意する。

1　刃をセットする手順

④刃受け金具とギヤケースには**回り止めの穴**があるので、六角レンチを入れて刃を締めつける。

⑤エンジンをかける前に、手で回してみてガタや振れがないか点検する。

⑥**飛散防護カバー**は正しい位置につける（取扱説明書に記載）。



（農文協「かゆいところに手が届く
農家の機械整備便利帳」より）

２　安全作業のために

（１）服装

◆裾、袖口が締っている作業服、ヘルメット、手袋、安全靴、防護めがねまたはフェイスシールド、イヤーマフ、すね当て、その他の防護具を着用すること。

◆腰手ぬぐい、首巻タオル、鉢巻をしないこと。

２　安全作業のために

（２）エンジンの始動と停止

◆刈払機を地面に置き、刈刃が地面から浮いていることを確認する。

◆メインパイプまたはグリップを押さえ、リコイルスターターを引いて始動する。

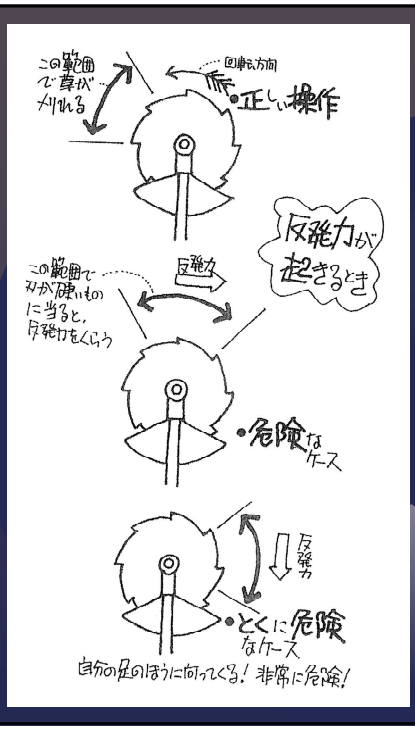
◆エンジンが完全に停止するまで、停止スイッチは復帰させないこと。

２　安全作業のために

（３）反発力に注意

◆反発力の原因になる固いものとは、なにも石だけに限らず、木や生え際の太い草や地面でも起こる。

◆腰を中心にして**右から左**に振って刈り、戻すときは刈ってはならない。また、絶対に前後には動かさない（とくに２グリップタイプの場合）。



（農文協「かゆいところに手が届く
農家の機械整備便利帳」より）

２　安全作業のために

（４）刃の選び方

◆刃の数によって８枚刃、３０枚刃、８０枚刃や、チップソーなどいろいろある。

◆メーカーが指定している大きさの刃を使用する。刃数は違っても問題ないが、直径と厚さには注意すること。

２　安全作業のために

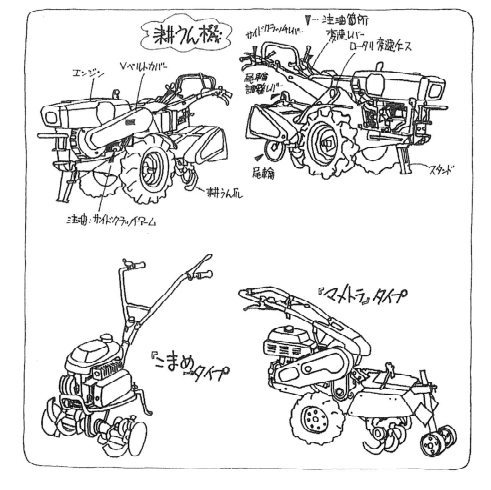
（５）使用後の注意事項

◆燃料は完全に抜き取る。

◆長期保管の場合はマフラーの穴に栓をしておくとよい（土蜂よけ）。

◆また、保管場所の条件によっては、エンジン内の錆防止を施す。

管理機・耕耘機



（農文協「かゆいところに手が届く
農家の機械整備便利帳」より）

安全な使い方

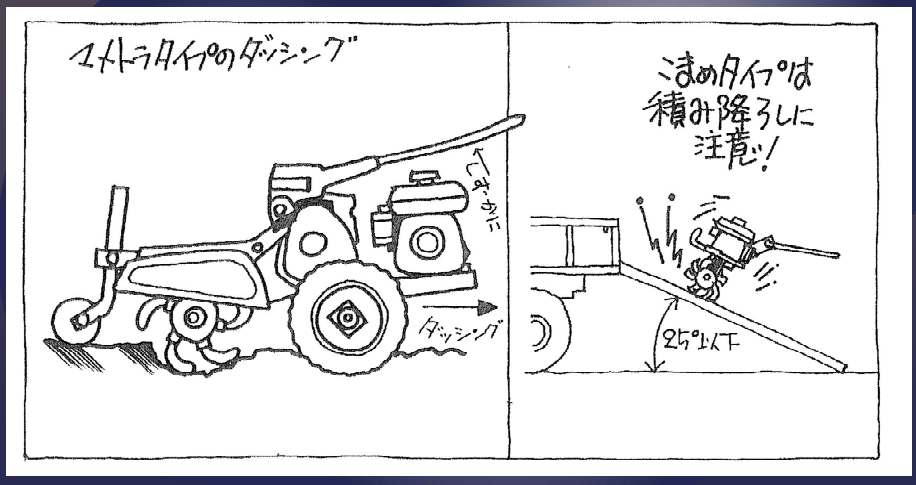
◆「危ない」と感じたら**機械を捨てて逃げる**。いざというとき、いつまでも機械にかじりついているのは禁物である。

◆事故が起こるのは**後進時**が多いので注意する。

安全な使い方

◆**ダッシング**（機体が前に飛び出したり、爪の反力で機体が押し戻されたりすること）に注意すること。

◆車輪のないタイプは**車への積み下ろし**に注意すること。あゆみ板（アルミブリッジ）の上で暴れたり、隙間に爪が挟まったりして危険である。



（農文協「かゆいところに手が届く
農家の機械整備便利帳」より）

点検・整備

①Ｖベルト

◆ほとんどの機械の場合、エンジンとミッション（走行や作業機駆動）の間はＶベルトで動力を伝えている。

◆クラッチレバーを操作することで、ベルトを張ったり緩ませたりして動力の断続をしている。

◆ベルトは古くなると内側からひび割れてくるので注意すること。

点検・整備

②クラッチヤイヤー

◆一般にワイヤーケーブルを引くときは人力であるが、戻すときはスプリングの力で戻す。したがって、ワイヤーの動きが錆びつきなどで渋くなると戻りが悪くなる。

◆水が入って錆ついたり、こすれて切れたりする。

◆使い終わった段階で、潤滑剤などをワイヤーの中に注入する。